

4月11日 [土] — 5月31日 [日]
休館日 月曜日、ただし5月4日(月・祝)は開館
開館時間 午前9時30分から午後6時まで(金・土曜日は午後8時まで)
※入館は閉館30分前まで

日本最古の巡礼路
西国三十三所の至宝が
京博に集結!



特別展
西国三十三所 草創1300年記念
聖地
をたずねて

西国三十三所の
信仰と至宝

西国三十三所の至宝が一堂に! 国宝・秘仏も公開!



みどころ 1 西国三十三所の至宝が一堂に
1300年の歴史を持つ日本最古の巡礼路「西国三十三所」。その総距離は約1000キロメートルにも及び、すべての札所を巡拝するには、歩いて数ヶ月かかります。本展は、「三十三所の至宝」が一堂に公開される、またとない機会となります。

みどころ 2 国宝、重要文化財、秘仏も公開
本展では、33の札所が有する国宝、重要文化財など貴重な宝物が多数展示されます。寺外への出陳が初めてとなる「秘仏」も公開されます。

みどころ 3 七観音が勢ぞろい
日本最古の巡礼所三十三札所は、閻魔王のお告げを受けた徳道上人が人々を救うために定めたと伝わる観音霊場です。本展では、七観音(聖観音、十一面観音、千手観音、如意輪観音、馬頭観音、准胝観音、不空罽索観音)すべてのお姿をご覧いただけます。

西国三十三所札所一覧

第1番札所	那智山 青岸渡寺	和歌山
第2番札所	紀三井山 金剛寺護国院(紀三井寺)	和歌山
第3番札所	風猛山 粉河寺	和歌山
第4番札所	横尾山 施福寺(横尾寺)	大阪
第5番札所	紫雲山 葛井寺	大阪
第6番札所	壺阪山 南法華寺(壺阪寺)	奈良
第7番札所	東光山 岡寺(龍蓋寺)	奈良
第8番札所	豊山 長谷寺	奈良
第9番札所	興福寺南円堂	奈良
第10番札所	明星山 三室戸寺	京都
第11番札所	深雪山 上醍醐・准胝堂(醍醐寺)	京都
第12番札所	岩間山 正法寺(岩間寺)	滋賀
第13番札所	石光山 石山寺	滋賀
第14番札所	長等山 園城寺(三井寺)	滋賀
第15番札所	新那智山 観音寺(今熊野観音寺)	京都
第16番札所	音羽山 清水寺	京都
第17番札所	補陀洛山 六波羅蜜寺	京都
第18番札所	紫雲山 頂法寺(六角堂)	京都
第19番札所	靈應山 行願寺(筆堂)	京都
第20番札所	西山 善峯寺	京都
第21番札所	菩提山 穴太寺	京都
第22番札所	補陀洛山 総持寺	大阪
第23番札所	応頂山 勝尾寺	大阪
第24番札所	紫雲山 中山寺	兵庫
第25番札所	御嶽山 播州清水寺	兵庫
第26番札所	法華山 一乗寺	兵庫
第27番札所	書寫山 圓教寺	兵庫
第28番札所	成相山 成相寺	京都
第29番札所	青葉山 松尾寺	京都
第30番札所	竹生島 宝厳寺	滋賀
第31番札所	姨綺耶山 長命寺	滋賀
第32番札所	織山 観音正寺	滋賀
第33番札所	谷汲山 華厳寺	岐阜

観覧料税込	当日	前売り・団体	※団体は20名以上。 ※中学生以下、障害者とその介護者1名は無料となります(要証明)。 ※大学生・高校生の方は学生証をご提示ください。 ※キャンパスメンバーズ(教職員を含む)は学生証または教職員証をご提示いただくと、各種当日通券料金より500円引きとなります。
一般	1,600円	1,400円	
大学生	1,200円	1,000円	
高校生	700円	500円	

前売り券の販売期間 2月7日(金)~4月10日(金)
主なチケットの販売場所 美術展ナビ、展覧会公式サイト(オンラインチケット)、セブンチケット(セブンコード082-012)、チケットぴあ(Pコード:685-164)、ロソンチケット(Lコード54364)、イープラス、近鉄の主な営業所、コンビニエンスストアほか。※チケット購入時に手数料がかかる場合があります。

◎ 研究発表と座談会「参詣曼荼羅の諸相」
◎ 日時: 5月9日(土) 午後1時~午後5時 ※詳細は公益財団法人 佛教美術研究 上野記念財団ウェブサイトをご覧ください。(2020年3月下旬以降)。 <http://ucno-zaidan.or.jp/index.html>
◎ 会場: 京都国立博物館 平成知新館 講堂

◎ 記念講演会
4月11日(土) 藤田 浩哉 (西国三十三所札所会 会長 今熊野観音寺 山主) ◎ 会場: 京都国立博物館 平成知新館 講堂
4月18日(土) 羽田 聡 (京都国立博物館美術室長兼列品管理室長) ◎ 時間: 午後1時30分~午後3時 ◎ 定員: 200名
4月25日(土) 浅湫 毅 (京都国立博物館連携協力室長) ◎ 聴講料: 無料(ただし当日の本展観覧券が必要です)
5月16日(土) 末兼俊彦 (京都国立博物館主任研究員) ※当日、正午より平成知新館1階グランドロビーにて 整理券を配布し、定員になり次第、配布を終了します。
5月23日(土) 上杉智英 (京都国立博物館研究員)

その他イベント、チケットなどの情報は、本展公式サイトや公式ツイッターをご覧ください。
本展公式サイト | <https://saikoku2020.jp>
公式ツイッター | @saikoku2020

表紙: 中央最上から時計回りに「十一面観音立像」京都・醍醐寺、「如意輪観音坐像」兵庫・圓教寺、「馬頭観音坐像」京都・松尾寺、秘仏「如意輪観音坐像」京都・頂法寺(六角堂)、「千手観音立像」(和歌山・粉河寺) [5月12日~31日展示]、「不空罽索観音坐像」京都国立博物館、国宝「粉河寺縁起巻」(部分)和歌山・粉河寺 [4月11日~5月10日展示]、「聖観音立像」滋賀・宝厳寺、重要文化財「善羅半輪像」奈良・岡寺 ※展示期間のない作品は通期展示



アクセス
○ JR・近鉄: 京都駅下車、京都駅前バスD1のりばから100号、D2のりばから206・208号系統にて博物館・三十三間堂前下車、徒歩すぐ。
○ 京阪電車: 七条駅下車、東へ徒歩7分。
○ 阪急電車: 京都河原町駅下車、京阪電車祇園四条駅から大阪方面行きにて七条駅下車、東へ徒歩7分。または京都河原町駅下車、四条河原町からバス207号系統にて東山七条下車、徒歩3分。
○ 市バス: 博物館・三十三間堂前下車、徒歩すぐ。または東山七条下車、徒歩3分。
○ プリンセスラインバス: 京都駅八条口のりばから京都女子大学前行きにて東山七条下車、徒歩1分。
※ご来館はなるべく公共交通機関をご利用ください。駐車場は有料となっております。

京都国立博物館
平成知新館(東山七条) KYOTO NATIONAL MUSEUM

〒605-0931 京都市東山区茶屋町527 TEL 075-525-2473 (テレホンサービス)
<https://www.kyohaku.go.jp/>

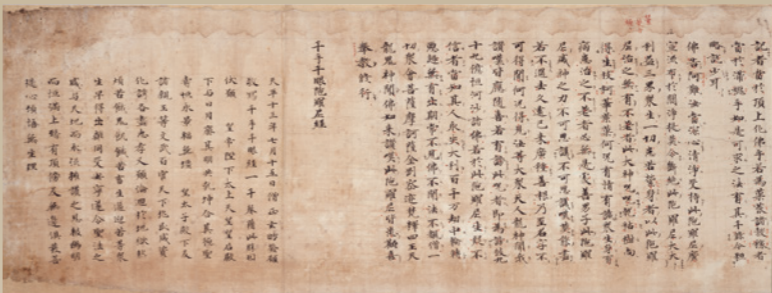


西国三十三所は、閻魔大王のお告げを受けた大和国長谷寺の開基・徳道上人が人々を救うために定めたと伝わる33の観音霊場を巡る、日本最古の巡礼路です。

巡礼路の総距離は約1000キロメートルに及び、和歌山、大阪、兵庫、京都、奈良、滋賀、岐阜と近畿圏を包括するように伸びています。長きにわたり、日本の首都であり文化の中心地である

第1章「説かれる観音」

人々を悩みや苦しみから救済する観音がどのように説かれているのか、
経典および儀軌から明らかにします。



国宝「千手千眼陀羅尼経 残巻(玄昉願経)」(部分)
奈良時代・天平13年(741) 京都国立博物館 [4月11日~5月10日展示]

重文「菩薩半跏像」
奈良時代(8世紀) 奈良・岡寺(通期展示)



片脚を一方の脚の上に組み、半跏(半跏)、片手を頬に当ててものを思う(思惟)姿から、半跏思惟像ともよばれる。如意輪観音の化身とされる聖徳太子への信仰と結びつき、わが国ではこのような姿の像は如意輪観音とも考えられた。

第4章「聖地へのいざなう」

人々を巡礼にいざなうにあたり、参詣曼荼羅や勅進状をはじめ、
大きな役割を果たした作品を紹介いたします。

「施福寺参詣曼荼羅」
桃山時代(16~17世紀) 大阪・施福寺
[4月11日~5月10日展示]



横尾山の伽藍を描く。天正9年(1581)に織田信長と対立し焼き払われたが、本図はその焼失直前の姿をとどめる。参詣曼荼羅は、寺院の財源確保のための勅進に用いられたと見られ、親しみやすい表現を身上とする。



「三十三所観音曼荼羅」
室町時代(14~15世紀) 滋賀・観音正寺
[4月11日~5月10日展示]

中央に釈迦三尊と聖徳太子を配し、周縁に三十三所の本尊を描いたもの。このような三十三所本尊を曼荼羅風に描く作品は鎌倉時代後期から現れ始めるが、本図はその中でも特に古い作品として有名である。

第5章「祈りと信仰のかたち」

貴賤を問わず信仰され、人々が祈りをささげた
多様な観音のすがたを、絵画、さらには彫刻を中心にとります。

秘仏「如意輪観音坐像」
京都・頂法寺(六角堂)
[通期展示]



建礼門院徳子(平徳子)が治承2年(1178)6月27日に安産祈願のため寄進したとの伝承を持つ秘仏である。

重文「如意輪観音像 一山(蜜賛)」
鎌倉時代・徳治2年(1307) 京都・松尾寺
[5月12日~31日展示]

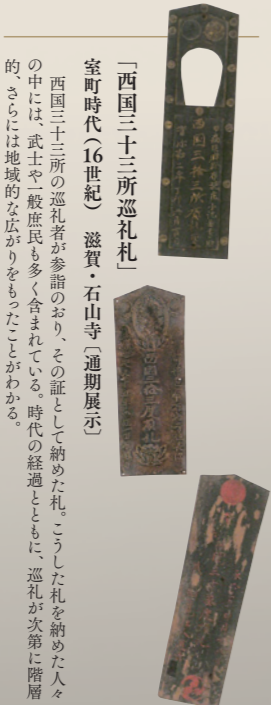


重文「千手観音立像」
平安時代(10世紀) 京都・醍醐寺(通期展示)

本来は上醍醐の観音堂本尊であった、と考えられている千手観音像。観音堂は、天徳年間(957~61)に建てられたと伝えられていて、本像の重量感にあふれながらも、起伏の少ない穏やかな作風はまさにこの時代のもの。

第6章「巡礼の足あと」

巡礼の盛況とともに刊行された書物、
または訪れた人々が実際に身につけたり、奉納した遺品にふれます。



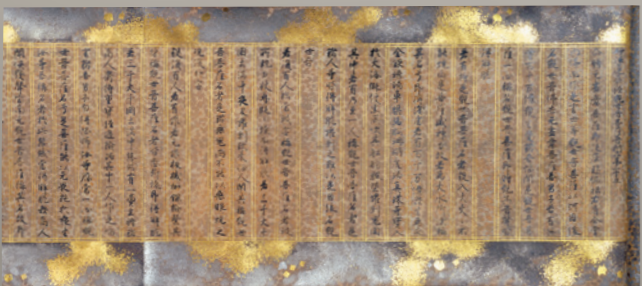
「西国三十三所巡礼札」
室町時代(16世紀) 滋賀・石山寺(通期展示)

西国三十三所の巡礼者が参詣しており、その証として納めた札。こうした札を納めた人々の中には、武士や一般庶民も多く含まれている。時代の経過とともに、巡礼が次第に階層的、さらには地域的な広がりをもつたことがわかる。

第7章「受け継がれる至宝」

宗派、歴史が一樣でない西国三十三所寺院において、
大切に受け継がれてきた固有の寺宝を紹介いたします。

国宝「法華経一品経 観世音菩薩普門品第二十五」
鎌倉時代(13世紀) 奈良・長谷寺(5月12日~31日展示)



「法華経」二十八品をそれぞれ巻として、金銀箔や砂子などで飾った料紙に書写する一品経。鎌倉時代前期を代表する装飾経で、長谷寺に伝わっていることから「長谷寺経」と呼ばれる。この「観世音菩薩普門品」は行書で書写されている。

第2章「地獄のすがた」

人々が観音へ期待した地獄からの救済。先人がイメージした地獄とは
いかなる場所であったのか、六道絵や十王図などにより可視的に示します。



国宝「六道絵」のうち「閻魔王庁図」
鎌倉時代(13世紀) 滋賀・聖衆来迎寺
[5月12日~31日展示]

源信(942~1017)撰『往生要集』に述べる六道の様相を具象化したもの。鬼の筋骨表現には、南宋様式の影響が確認される。もと比叡山横川雲山院に伝来し、織田信長の比叡山焼き討ちにより、現所蔵先に移されたとみられる。



執着を捨てられなかった者が死後に身を墮とす。餓鬼の世界を描く。水を飲むこともできず苦しむ餓鬼のリアルな表現は、当時の人々が救いのない苦しみを切実に感じていた証拠。平安末期の末法思想に裏づけられた作品である。

第3章「聖地のはじまり」

西国三十三所の成り立ちと深く関わる人物とともに、
それぞれの寺院の由緒や歴史を説いた縁起類を紐解きます。



「徳道上人像」(部分)
江戸時代 万延元年(1860) 奈良・法起院
[通期展示]

長谷寺の開基とされる徳道上人は、地獄で閻魔王より観音霊場三十三所の功德を広めるように依頼され、よみがえると三十三所巡礼の利益を説いたと伝えられる西国巡礼の祖。



国宝「粉河寺縁起絵巻」(部分)
平安時代(12世紀) 和歌山・粉河寺(4月11日~5月10日展示)

第三番札所・粉河寺の創立や、本尊・千手観音像の靈験を描いた絵巻。彌師や長者の暮らしぶりや、登場人物の生き生きとした表情が見どころの古典的名品である。

※会期中、一部の作品は展示替えを行います。